

第3次二宮町環境基本計画（前期実施計画）令和6年度進捗状況に対する委員意見

No.	重点No.	事業名	意見内容	意見分類
1	2	葛川の美化を推進	<p>・今後、美化の推進とともに生物調査等も活発に行っていくのであれば、何らかの形で安全確保（水難事故防止）に関する啓発も取り入れていく方が良いと感じる。これは、気候変動に伴う局地的な豪雨による河川増水が関係することもあるので、地球温暖化対策と一緒に考えることも可能だと思う。</p> <p>・安全対策に関しては、里山や山林等での体験学習でも同様のことがいえるので、防災・減災教育等とあわせて（協力して）行うのが望ましい。</p>	改善策
2			「葛川に親しもう会」への参加者は、リピーターが多く、新規申込者が増えていない、目標値を下回っているという点からすれば、広がりに欠けており、改善の余地があると言えるかもしれない。しかし、魅力ある取組だからこそリピーターが多くいるといううえ方もできるのではないか。	妥当性
3	4	地域美化活動を推進	時期の再考、美化目的ですか。目立つゴミが少ないと草葉になるので秋でも地区に寄りますが。	改善策
4			地域美化活動では新規参加者の増加が課題→広報方法の見直し必要。	改善策
5	5	町民の地球温暖化防止行動を促進	地球温暖化に対しての町民への働きかけは商工会や観光協会への組織への共有をもっと積極的にするべき	改善策
6			現状では、提供数や閲覧者数が指標になるが、それらの情報を受け取った人たちの反応、それによる行動変容がはかれるようなアプリ等のツールを考えていく必要があると思う。（現実には難しいが、ワークショップ等で広く町民の知恵を借りることも考えたら良いのではないか）	改善策
7			プラスチックごみもリサイクルできなければCO2になってしまうため、気候変動対策の啓発と同時に、ごみの減量に関する啓発を行うなどの工夫をする必要がある。	改善策

No.	重点No.	事業名	意見内容	意見分類
8	6	子どもたちの地球温暖化防止行動を促進	地球温暖化防止等の環境問題について、学校では、理科や社会科、総合的な学習の時間を中心取り組んでいる。出前授業・出前講座により、子どもたちも楽しく学び、興味関心が深まると考える。また、マイエコ10宣言の取組も、子どもたちの環境問題への意識を高めることに寄与している。 しかし、子どもたちが日頃から学んだことを意識して行動に移すことができているかについては十分でない面が見られる。行動にどう移していくかが今後の課題と考える。	改善策
9			No.5 同様に商工会観光協会の組織も子供と一緒に学ぶ重要性は大きい。	改善策
10	7	ハザードマップ・防災情報アプリ等の活用を促進	近年の経験から年々変化する予期せぬ災害への危機管理の周知を常に変化に対応できるよう徹底する。	改善策
11			ハザードン、町のLINE、メール等々、すべてに登録していると同じような情報が一時にスマホに送られてくる。まずこの現状を整理する必要があると思う。災害に特化したハザードンの登録を増やすなら、普及PRとともに、ハザードンの使い方、情報の読み取り方等々の講習会を行う必要があるように感じる。	改善策
12	8	熱中症対策の推進	まさに気候変化が激しくなり、クーリングシェアが必要かと。公共施設は当然ですが、空店舗等の開放。	改善策
13			熱中症対策の周知方法を多様化し、特に高齢者への情報提供を強化することが求められる。	改善策
14			猛暑で、毎朝9時の定時放送となってしまった「熱中症警戒アラート」「ああ、またあれか」と慣れすぎて、注意喚起にならなくなっていたように感じた。同時に、他の警報等があっても耳を傾けなくなる恐れがある。熱中症警戒アラートの発令は決まり事かもしれないが、もうひと工夫をするのではないだろうか。熱中症アドバイザーの養成講座を町主催で開催することは可能なのだろうか。	改善策
15	10	公共施設における省エネ設備、再生可能エネルギーの導入	省エネは耐震と同じ、という認識を持ちながら予算を付けてLED化を推進るべきだと考えます。また、再エネ転換がされていない施設がありましたら、そちらも予算を付けて対応をして欲しいと思います。	改善策

No.	重点No.	事業名	意見内容	意見分類
16	11	世界規模、地球規模での環境問題に関する教育・学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常の授業以外に別枠を設けての出前講座は、学校側の負担も大きいので、各教科教育の中で取り入れられることを、具体的な方法とともに伝え、それを実績に組み込んでいくのはどうか。</li> <li>学校外での活動として、（公財）日本環境協会の子どもエコクラブ等に参加するなど、誰でも参加できる（色のついていない）団体等をつくることも啓発になると考える。</li> </ul>	改善策
17	12	環境に関する情報提供の推進	環境保全に向けた地域活動の参加者の年齢層を広げるため、年齢層に応じた募集方法を検討する。	改善策
18			若年層がデジタル化に必要な知識や技術を身につけ、それを高齢者に教えるといった仕組み作りを町全体で行い、各町内会でそれをもとに実践してもらうのはどうか、町内会からの脱退を防ぐ策の一つとして行っても良いのではないかと考える、	改善策
19	13	体験しながら環境について学ぶ機会の創出	今後の話になりますが、「遊び」→「生物多様性調査」になるような体験会を企画して、遊びながら学び、データも収集できるような仕組みにしていくといいと思います。東大の宮下教授のお力もいただきながら、よりよい機会創出になれば、と思います。	改善策
20	14	環境への想いをつなぐ場づくりの推進	話し合いの場、学びの場だけを繰り返していくも、いまの「町民力」がもったいないので、学びながら、町の施策や市民提案の中にあるアイデアを実践していくような政策推進のためのサポートチームへと発展させていくべきと考えています。事業者や町民、役場の皆様と協力関係を継続せながら、「実」を作っていく事業へとステップアップしていくといいと思います。	改善策